

### 第3節 亀山構内の立会調査

#### 教育学部附属幼稚園遊戯室拡張に伴う立会調査

調査地区 亀山構内

調査期間 昭和62年11月26日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約40m<sup>2</sup>

調査結果 亀山構内では過去に3件の調査を実施しているが、今回の調査地点は、昭和61年度に行った污水排水管布設に伴う試掘調査で設定した、幼稚園部分の第1、3トレンチの中間にあたる。第1トレンチでは、層厚約80cmの構内造成時の埋め土の下位に、弥生土器を含む遺物包含層が検出されている。層厚は40cm以上で、少なくとも三層に分層され、最下層は堆積状態、土壌の性質から遺構の埋土の可能性が指摘された。また、第3トレンチでは、現地表面約70cm下位で遺構と思われる二時期の掘り込みを検出した。切り合い関係にあり、新しいほうからは室町時代の土師器が出土した。しかし、調査面積が狭く、また、出土遺物も少ないため、明確な規模、時期等は明かにしえなかった。

工事は東端部に存在する既設のプールを撤去後、現地表面から約60cm掘削するもので遺物包含層あるいは遺構に達する可能性があったため立会調査を行った。しかし、工事基底部まで造成時の埋め土で、顕著な遺構、遺物包含層は検出されなかった。亀山構内では、これまでトレンチによる調査が行われているにすぎず、埋蔵文化財の調査はその緒についたばかりである。今後の調査によって遺構の分布状況、遺跡の性格・時期・展開過程、周辺遺跡との関連を明らかにする必要がある。

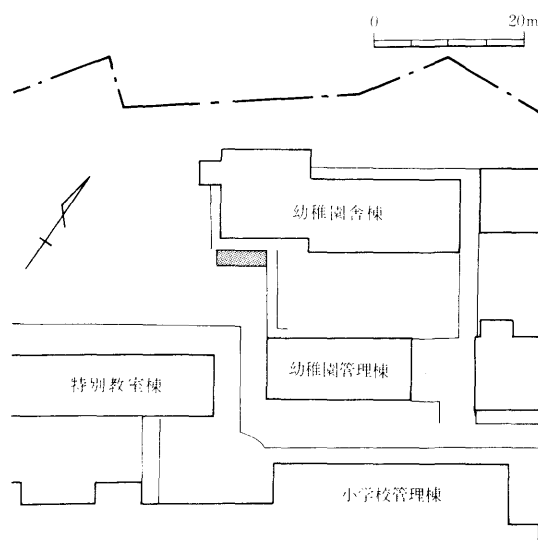


Fig. 63 調査区位置図

[注]

- 1) 山田大学埋蔵文化財資料館「亀山構内教育学部山田附属学校污水排水管布設に伴う試掘調査」(『山田大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』、1987年)。